日刊 動労千葉
大合成功のために
86. 8. 29
No. 2333
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

第2労使共同宣言・「61.11ダイ改」即日集約

裏切りの連続、とまらぬ転落

いまこそ動労大改革へ

動労「本部」、鉄労、全施労、真国労のマル生・御用四組合によって結成された「国鉄改革労働組合協議会」なるものが七月三〇日、国鉄本社において当局と話し合いをもち、「国鉄改革をおしすすめ、国鉄労働運動のリーダーシップをとって国労を打倒し、総連合―一企業一組合をめざす」ことを当局とともに確認したという。裏切り集団・マル生グループの「国鉄改革労働組合協議会」なるものを怒りをもって弾劾し、たたきつぶさなければならない。

「まじめ職員」の規定は、分割・民営に賛成か反対か

国鉄本社・総裁室でもたれた「国鉄改革労使協議会」において「国鉄改革労働組合協議会」議長の鉄労・志摩は、当局に対し「六一・一一ダイ改」はスムーズにやれ」「労使協議会の組合所属の職員へ新会社へのパスポートをよこせ」などを要求したという。

それに対し、国鉄総裁・杉浦は「まじめに働く職員の希望はなんとかかなえてやりたい」などと言いなしている。

「まじめに働く職員」の規定はいったい全体どういうことなのだ。「分割・民営」に反対する者を不マジメ、賛成するものをマジメということでしかない。

選別・差別の対象としてこんな理不尽なヤリ方をどうして許せるか。

「六一・一一ダイ改」四組合 即日集約の裏切り

革マル・松崎は「国鉄改革労使協議会」の席上、総裁・杉浦が「将来にわたりお付合いを」といったなどと喜々として翌三一日、「六一・一一ダイ改」の細部提案を受け、「組合・利用者の要求が実現した」とし、何んと即日集約という大裏切りを行ったのである。八万人大合理化としてある「六一・一一ダイ改」提案を労使でつくりあげたダイ改などといっている。

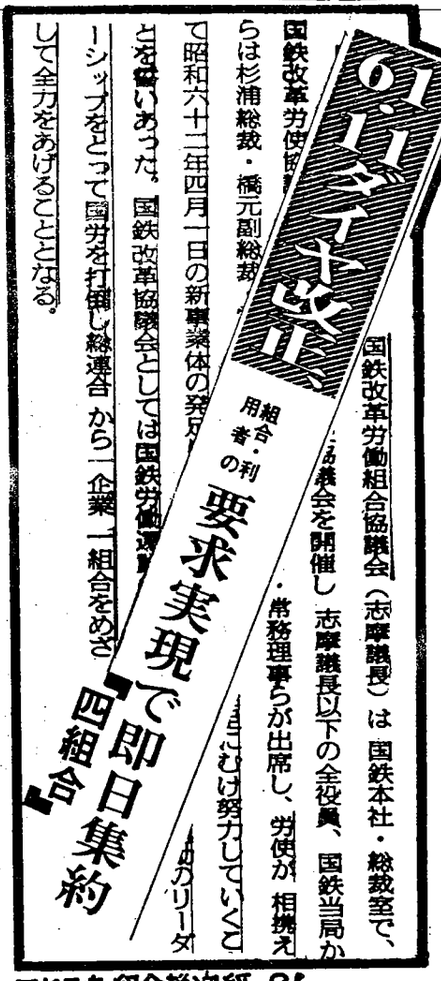
国労の「妥協」路線に「第二共同宣言」を対置

国労が「大胆な妥協」路線をうちだしたことで「国鉄労使協議会」はスト放棄などを盛りこんだ「第二労使共同宣言」を締結せんとしている。

この一年間、中曽根・国鉄当局の国労解体に焦点をしぼった諸攻撃の激化は、第二鉄労と化し、当局に率先協力して延命しようという動労革マルの実にうす汚い思惑とともに当局もこのさい動労革マルの転落をフルに利用し、これを切り札にいっきょに国労解体に踏み切ったのだ。

中曽根・杉浦・松崎らは「悪の根源はたたかう労組にある」とデマをとばし、これを打倒すれば国鉄問題は解決する、それどころか、世の中はすべて良くなるといった調子なのだ。

十万人の国鉄労働者が、仲間が首を切られようとしている時、自分だけは助かりたい、人を足蹴にしてもという連中をたたきだす闘いなくして勝利はない。


61.11ダイ改止
国鉄改革労働組合協議会（志摩議長）は国鉄本社・総裁室で、
協議会を開催し 志摩議長以下の全役員、国鉄当局か
・常務理事らが出席し、労使が相携え
にむけ努力していくこ
のリーダ
組合・利用者の
要求実現で即日集約
四組合
国鉄改革労使協
らは杉浦総裁・橋元副総裁
て昭和六十二年四月一日の新事業体の発足
とを誓いあった。国鉄改革協議会としては国鉄労働運
ーシップをとって国労を打倒し総連合から一企業一組合をめざ
して全力をあげることとなる。

これでも組合機関紙？！
当局広報紙「つばめ」とみまがうばかりだ

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！